

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日時 令和4年1月29日(土) 10時~12時
◇場所 奈良県立万葉文化館
◇参加者 村上(平城小)、藏前(真美ヶ丘第一小)、石田(佐保川小)
川田、東(学生)
阪口(万葉文化館)
米田、大西(奈良教育大) 計8名

◇内容 実践報告

1. 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前拓也先生

「まみいちから伝える竹取物語の魅力 ~万葉集 古典に親しもう~」小学校6年総合

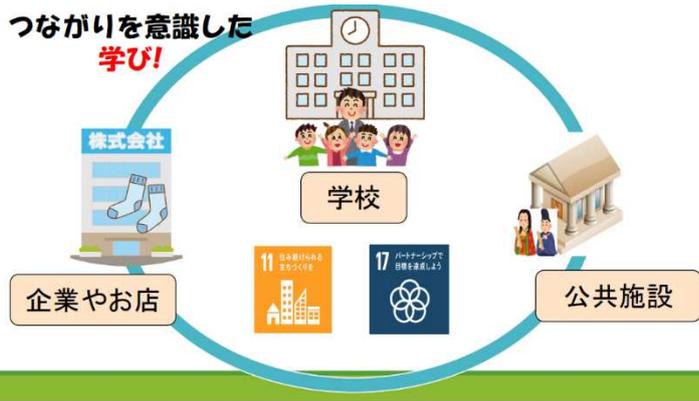
【概要】

知る	万葉集に親しもう 「万葉集クイズ」 竹取物語に親しもう 広陵町のキャラクター「かぐやちゃん」 広陵町と竹取物語のどんな関係がある？
調べる	ボランティアガイドの方をゲストティーチャーに招く 讚岐神社と竹取公園に行ってみよう 「竹取物語」のゆかりの地になっていることが分かることながら(竹、看板、モニュメント) 万葉文化館の阪口研究員に来ていただいて、万葉集について学ぶ 万葉集と竹取物語のつながりについて いろいろ話の内容が違っている 竹取公園の池の龍のモニュメント「何か意味がありますか？」 公園で働いている人も知らない。 → きっと意味がある！
まとめる	作者不明の物語が1000年以上も受け継がれているのはなぜ？ 竹取物語の魅力 大人たちでも知らないのだから、もっと知ってもらいたい
ひろげる	竹取物語の魅力を伝えるために、自分にできることは？ 「まみいちかぐや姫プロジェクト」 ・カルタ作成；下級生に発信 ・解説動画作成；家の人に協力してもらいながら自分で制作 ・和菓子のデザイン；地域の和菓子店に提供 → 現在商品開発中 ・靴下のデザイン；靴下会社に提案 → 現在商品開発中 など

【成果】

事前アンケートと比較して

- ・「広陵町は好きですか？」「地域のために何かしたいと思いますか？」大きく上昇
- ・「広陵町の自慢は？」 竹取物語、古墳 大きく上昇



・地域にゆかりのある教材を扱ったことで、地域にあるものの魅力や価値 再発見することができた。

・学校、行政、公的機関、企業などとの関わりの中で、学習することができた。

「学校での学びは地域や社会とつながっている」ということが実感できた。

【意見交流】



靴下会社に自分たちのデザインを提案



和菓子店に新商品のデザインを提案

- ・万葉文化館に見学に行けなかったのは残念だが、行くと万葉集への関心がより深まるだろう。
- ・家族や下級生に学びの成果を発信することで、より理解が深まる。
- ・竹取物語という地域の題材をきっかけとして、地域への関心が広がっている。
- ・地域の企業や店にとって、子どもからの提案はありがたいこと？

それでも、商品化を目指してくれているということは学校と地域がつながったということ。

「社会に開かれた教育課程」とは、まさにこういう実践のことを言うのだと思う。

- ・こういう実践は広陵町内の学校でみんなやってほしい。

靴下の商品化にあたっては、広陵町の許可があるのでそれも会社が動いてくれている。

2. 奈良市立平城小学校 村上雄太先生

「ひらけ！ 万葉まきもの ～言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ～」小学校2年

【概要】

巻物で1時間ずつの課題を提示する。

1時間目 算数 九九で文章をつくろう

万葉集の九九を使った一文を紹介 「八十一里つつ」(くくりつつ)

二十とにいく(しごととにいく) す三十をする(すごろくをする)

三十六びがいる(ろくろくびがいる)

2時間目 国語 浦島太郎のお話をつくろう

昔の原文を見せ、話を予想する
文部省歌「浦島」を聞く（歌を知っていたのは4人程度）
風土記・万葉集の話を読み、似ているところをさがす
「同じ浦島でもいろいろ話が違っておもしろい」
キーワードを残しながら自分の「浦島太郎物語」を作る

3時間目 生活 昔あそびをしよう

万葉集のさいころを使った一文を紹介する
昔のすごろく（バックギャモン）を紹介し、体験する

4時間目 音楽 わらべ歌であそぼう

万葉集は歌であるということを知る
「はないちもんめ」「ならのだいぶつさん」を体験する

5時間目 国語 万葉集から学んだことを生かそう

「奈良山の嶺の黄葉取れば散る 時雨の雨し間なく降るらし」（1585）を詠む
→ 一瞬の情景や心情をとらえたもので、それを表現したものが今も残っていることに気づく
昔の人がしていたことを自分もしてみたいという思い
身近な出来事も残す価値のある宝物になる
どうすれば自分の思いを言葉にできるか詩に書いてみる → はじめての詩
それぞれの子の個性あふれる詩ができた。
万葉集の五七調が分かりやすかったようである

【まとめ】

体験した }
楽しめた } 万葉集
出会えた }

「昔の人は『楽しい』を伝えてくれた。」

「万葉集の人たちはそのときの思いを言葉で残してくれている。」

これまでの学習の振り返りをつなげ、巻物のもとにする。（現在中断中）年度末までに完成させたい
巻物の最後に自分の思いを書く

【意見交流】

- ・ 2年生で万葉集というのは難しいと思ったが、こんなやり方なら楽しくできそう。
- ・ 一日まるごと万葉集にどっぷりと浸かるというのが2年生としてすごくいいと思う。
- ・ 2年生でこのような形で万葉集に触れられたら、この後の学年での古典の学習では楽しそう。
- ・ この子どもたちが万葉文化館に来たら、どんな思いを持つのか興味深い。

